

2022年 5月1日  
NPO法人 森を再生する会

## 水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

### — 目 次 —

- ・カーボンニュートラルについて考える 1 P
- ・森を再生する会活動報告 2 P
- ・地球温暖化対策の挑戦 3 P

- ・森の活動 SDG s 記事 5 P
- ・対談 6 P
- ・令和4年度活動計画 7 P
- ・寄付のお礼

## カーボンニュートラルについて考える

～地球は、今、少しおかしいと感じていませんか？～

### (1) IPCC 最新報告～地球温暖化対策は待ったなし～

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は2022年4月4日、産業革命前と比べた気温上昇の幅を1.5℃に抑えるには、世界の温室効果ガス排出量のピークを遅くとも2025年以前に抑える必要があると指摘する報告書を公表しました。

これまでIPCCは、CO<sub>2</sub>の排出量を2030年に2010年と比べ45%削減し、2050年には実質ゼロにする必要があるとしていました。

ちなみに、世界の平均気温は産業革命前と比べてすでに約**1.0℃**上昇しています。このまま温暖化が進めば、早くも**2030年**には**+1.5℃**に達してしまうことはIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が**2018年**に報告しているとおりです。

2025年までということはあと3年でCO<sub>2</sub>排出量のピークに抑え、それ以降は毎年排出量を減らし、2050年には、人間が出すCO<sub>2</sub>と吸収するCO<sub>2</sub>を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にするというものです。それが達成できなければ、人間が住む地球で様々な危機的な問題が多発するということです。

（文責：神谷輝幸）

# 令和3年度森を再生する会活動報告

- ① 会報36号発行 2022.5.1発行
- ② 水源の森取得事業 未実施
- ③ あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業  
以下の通り実施しました。

写 真	内 容
	<p>行事名：自然観察会            日時：令和3年7月25日                      8：30-15：30            場所：設楽町千年の森            参加者数：30名</p>
	<p>行事名：下草刈り            日時：令和3年8月22日                      8：30-15：30            場所：新城市作手高里            参加者数：10名</p>
	<p>行事名：植樹準備            日時：令和3年10月17日                      8：30-15：30            場所：新城市作手高里            参加者数：7名</p>
	<p>行事名：植樹            日時：令和3年10月24日                      8：30から12：00            場所：新城市作手高里            参加者数：21名</p>
	<p>行事名：森づくり講座            日時：令和3年10月24日                      12：00から15：30            場所：新城市作手高里            参加者数：21名            講師：吉野知明先生</p>

写 真	内 容
	行事名：防護ネット設置 日時：令和3年11月28日 8：30-15：30 場所：新城市作手高里 参加者数：10名

## 地球温暖化対策の挑戦！！！！

CO2削減の方法は大きく分けて2つ。一つは、CO2を出さない生活をする。二つ目は、CO2を地下に埋め込むこと。無煙炭化器を使って、剪定枝を炭にする山梨県山梨市の挑戦を紹介する。

### 農業の脱炭素化、4パーミルで山梨先行

菅義偉首相が表明した2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ目標や、30年度に13年度比で46%削減する政府目標など、脱炭素の動きが加速している。製造業、運輸、エネルギー分野での対応が話題の中心だが、農業分野の脱炭素として「4パーミル・イニシアチブ」という手法が世界的にも注目を集め、日本では山梨県がトップランナーだ。果樹栽培との親和性が高い特性を生かし、「果樹王国やまなし」として認定制度やロゴ策定など際立った取り組みをみせている。

### 土壌に炭素をためる

パーミルとは1千分の1で、4パーミルとは1千分の4、つまり0.4%のこと。農地などの地表から30～40センチの土壌の炭素量を年間で0.4%増やすことができれば、人間による二酸化炭素(CO2)の排出の影響を帳消しにでき、温室効果ガスの削減につながるという、フランスが2015年のCOP21で提唱した農業の脱炭素手法だ。

具体的には、土壌を耕さないことで地中の有機物をそのままため込む「不耕起」、光合成で炭素をためた草を刈ってそのまま堆肥にしたり、生やしたままにしておく「緑肥・草生」といった手法が世界的に認められている。稲作や野菜などの田畑での実施は難しいものの、下草があっても成長や収穫量に大きな影響が出ない果樹栽培にとっては、採用しやすい手法だ。

### 剪定枝を炭焼き 土壌に投入

山梨県では、果樹の剪定枝(せんていし)を炭に焼き、「炭素循環」を実践中。



## 森も CO2 削減の重要な役割を担っている

地球全体にどれだけ森が広がれるかを調べた初の研究によれば、現在、森林の再生が可能な土地は米国の広さほどもあるという論文が、7月5日付けの学術誌「サイエンス」に掲載された。そのすべてが森で覆われれば、過去100年近くの二酸化炭素排出量を相殺する実力があるという。

特定非営利活動法人地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょうが、この度、根羽村の山林を市民の寄付金で12haを購入した。この面積で、市民の飲料水がどのくらいまかなえるか、また、CO<sub>2</sub>がどのくらい吸収できるか、を計算してみた。

その結果は、

※1、12haで賄える飲料水の量 → 17,340人分 ÷ 3 = 5,780人分

＝安城市民の飲料水を確保するには360haの水源地の森が必要

※2、12haの山林が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>の量 → 576トン

＝人間が排出するCO<sub>2</sub> 4,800人分を吸収する。

(25㎡に1本樹木があるとして、計算)

このことから森の役割は、以下のようにまとめることができる。皆さんも計算してみてください。いかが？

森の役割は、

① 水源の確保

② CO<sub>2</sub>削減(地球温暖化対策)のために有効な方法であり、カーボンニュートラルの切り札の一つ、と考えます。



半場川堤防沿いに安城ライオンズクラブが陽光桜など18万本植樹した折に、本会が協力したことなどに対して、安城ライオンズクラブ60周年記念式典でNPO法人森を再生する会に感謝状が贈られました。

大変励みになります。安城ライオンズの皆様、ありがとうございました。

私たちの活動が SDGs の取り組みとして紹介されました。

中日新聞朝刊掲載 2022.4.10



矢作川水系の恩恵を受ける安城市と、その水源となる森林を抱える長野県根羽村の交流の歴史は、百年を超える。市や明治用土地改良区(大東町)はそれぞれの形で、村にある森林の保全に協力してきた。三月三十日には、安城のNPO法人「エコネットあじょう」が、水源の森十二畝を購入することで、村側と正式に合意した。

エコネットの神谷輝幸理事長(左)は村役場で、大久保憲一村長(右)に「今後は森を使った啓発活動などを考えていきたい」と思いを伝えた。大久保村長は「時代が移り変わる中で、水を通じた結び付きが形を変えながら広がっている。交流は山の管理にもつ



陸の豊かさを守ろう

水源の森 買って保全 安城

恩返し 先人の教えを胸に



ながっていて、ありがたい」と感謝した。今後、正式な測量などを経て、購入契約を結ぶ。

安城市には「水を使う者は自ら水をつくれ」という教えが今も生きる。市の前身の旧

安城町の町長や明治用土地改良区の初代理事長を務めた岡田菊次郎(一八六七―一九六二年)の言葉だ。「山のな

いまに暮らしているから」と思いたくない」と神谷理事長や企業などに地道な呼び掛け

エコネットを中心に、村有林三十六畝を三千六百万円で買い取ることを目指し、水源の森として保全しようと動きだしたのは二〇二二年。市民



村産の木がふんだんに使われた講堂を案内する大久保村長(右から2人目)ら  
いづれも長野県根羽村で  
エコネットが購入する水源の森「エコネットあじょう」提供

を続けた。目標には及ばなかったが、十年間で約千二百万円が集まり、計画の三分の一ほどの購入にこぎ着けた。

村には山からの水が湧き出ている場所がある。「矢作川源流」の看板が立つこの場所には、いつ訪れても、いつも変わらない量の水が出てい

「山はたたくさんの水をため込んで、少しずつ私たちに分け与えてくれる。山を守ることが、命を守る」と実感する。

大久保村長は「豊かな森を次の世代につなげていくには、木の使い道を広げていくことが重要」と訴える。杉の間伐材チップを繊維化した「木糸」を使った布製品など、従来とは違う用途で木を活用する試みにも挑戦している。

「木をさまざまな形で使っていく仕組みを、安城の皆さんの協力も得てさらに進めたい」と大久保村長。神谷理事長は「新たな森を拠点に、森を守る重要性を発信していきたい」と決意を新たにしていた。(四方さつき)

森を再生する会の活動は、矢作川水源の森トラストプロジェクトへと発展し、

実を結んだものです。会員の皆様からも賛同をいただき、多額のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

# 対談

## 古井銀太郎さん大いに語る

コロナ蔓延防止措置が解除されたある日、古井銀太郎さんと日帰り温泉で日頃の閉そく感から解放されました。行き先は猿投温泉、岩風呂金泉の湯として、ファンも多い温泉です。天然ラドン療養泉として健康志向の人にも人気です。安城市から1時間10分ほどですので、年寄り向きです。出発から帰着まで古井銀太郎さんから貴重なお話が聞けましたので、対談という形で内容を紹介させていただきます。

神谷： 古井さんの生い立ちをお話しいただけますか？

古井： 生まれたところは、はっきりしませんが、多分山の中だと思います。

神谷： 足柄山の金太郎さんみたいですね。

古井： 信じてもらえないかもしれませんが、両親は炭焼きを業としていました。炭焼き小屋で過ごすことが多かったので、あり得ない話ではないですね。

神谷： 富山村での思い出をお話しいただけますか。

古井： 村の生活はうまくできていたと思いますね。ワラビ獲り、クリ拾い、ゆずなど山の幸に恵まれていました。米作りの他、アワ、蕎麦、野菜も採れ自給自足の生活です。牛で田んぼを耕し、鶏は卵を産んでくれますので、お金はあまり使いません。人糞もよく醗酵させて使い、肥料も買う必要がありません。家を作るにも自分の山から木を切り出し、大きなのこぎりを使って自分で板を作ることもしていました。富山村は名の通り、富んだ山の村であり、物がうまく循環していましたね。

神谷： 富山村から出たきっかけは？

古井： 当初、愛知県が炭焼きを奨励し、公社も作り、父親は炭焼きの指導者として働いていました。やがて炭焼きは、材料となる木もなくなり斜陽産業となりました。生活のために、自分も豊橋に出て、履物の卸の仕事につきました。その仕事も下火になり転職を考えていたころ、ふ

と目にした新聞の求人広告に出会い、第一生命に就職しました。

神谷：長い人生の中で決め手となったことは何でしたか？

古井：人生は出会いだと思えます。第一生命では非正規社員として就職しましたが、ある日、上司が正社員の試験を受けてみなさいと推薦してくれました。東京本社まで出かけて試験を受けたのですが、自分では全く自信がなく会社が手配してくれた新幹線の中でも心が晴れませんでした。しばらくして届いた合格通知に、よい上司に出会えたことに感謝するばかりでした。

神谷：古井さんは大病を克服して、現在92歳。矍鑠としておられますが。

古井：C型肝炎も完治しました。山登りをしていて足を痛めたこともありましたが、今は完治し、月に1回くらい、仲間と山登りをしています。

神谷：高齢社会の今、誰しも健康で長生きを願っています。そのお手本のような生き方をしていらっしゃる古井さんには、これからもお元気で長生きしていただき、その知恵を学びたいと思えます。ありがとうございました。

## 令和4年度 水源の森づくり活動計画

② 6月26日(日) 間伐 (新城市作手)

② 7月24日(日) 「千年の森」自然観察会 (設楽町)

③ 8月28日(日) 間伐 (新城市作手)

④ 9月25日(日) 植樹準備 (新城市作手)

⑤ 10月25日(日) 植樹&獣害防止ネット設置 (新城市作手)

⑥ 11月22日(日) 間伐、間伐材搬出 (新城市作手)

※コロナウイルスの状況で、計画が変更になる場合があります。

※集合歴史博物館駐車場、出発8:30

※⑤は、集合:JA安祥支店、出発9:00

☆令和3年度 NPO森を再生する会へ寄付をいただいた方☆

遠山松枝様 20,000円

坂田成夫様 8,000円

※山を購入する資金として積み立ててまいります。

## あいち森と緑と環境学習助成事業

### 参加者募集

千年の森

# 千年の森づくりを訪ねる

NPO法人森を再生する会

日時 令和4年 **7月23日(土)**

場所 北設楽郡設楽町(千年の森)

集合 JA安祥支店集合8:30

【日程】 9:00 出発—11:00 千年の森着—(昼食)—14:00 出発  
16:00 安城到着(予定)

定員 20名先着順(小学生以上)

参加費 無料

申込 7月10日までに下記連絡先へ

講師 加藤博俊先生(環境省自然観察指導員)

持ち物 水筒、雨具(小雨決行のため)、マスク、箸、取り皿

※弁当は森を再生する会でバーベキューを準備します。

※朝の体温 37.5℃以上の方は、参加できません。



集合場所地図: JA あいち中央安祥支店



【連絡先】 神谷輝幸 080-3648-4942 (森を再生する会代表)